



つたえあう  
つながる  
みんなのしあわせ

# まずは知ろう！



## 福祉教育とは

生活や学習の中で「福祉」を学ぶことを、福祉教育と言います。「福祉」とは、「自分のしあわせ」と「みんなのしあわせ」を共に考え、実現に向けて実践していくこと。つまりこれは、生徒、児童が様々な活動を通して相手のことをよく知り、自分のことも知るという“人が共に生きる”学習とも言えます。

下田市社会福祉協議会が推進する「福祉教育」では、「福祉」を学ぶ中で、日頃見過ごしてしまう日常生活の問題に気づき、自分と他者のよりよい生活を考え、自分をみつめ養う力を育成することを目的として取り組んでいます。また、人との関わりや人とのつながりの大切さを学んでほしいと思っています。

福祉教育の実践は、学校を含むそれぞれの地域住民に対して行われています。それぞれの学校や地域の特性にあわせた活動を模索しながら行っています。

## 学校での取り組み例

- 同じ地区で生活している人達といっしょに行う活動  
(例：合同運動会、お年よりから昔の遊びを教えてもらう、町の障害物点検活動等)
- お話を聞く会（例：名人、専門家、障害のある人など）
- 福祉についての調べ学習（例：ビデオや文献を使って学習）
- 環境活動（例：地域内の清掃、収集活動等）
- 施設との交流（例：地元の保育園や社会福祉施設で生活する人達との交流）
- 障害の理解学習（例：車いすやアイマスク等の疑似体験、障害者スポーツ大会等）
- 愛の募金運動
- 福祉新聞の作成
- 福祉作品展への出展
- 校内の障害物を除く工夫を考える活動

その他にも、あいさつ運動や合唱活動など、日頃の活動を見直す活動等もしています。しかしこれもほんの一例で、各学校でそれぞれの独自性をもった活動を行っています。

# 進めていく上で！



## 1. 福祉教育と地域のネットワーク

福祉教育は、福祉と教育が連携・協働してはじめて可能となる取り組みです。それぞれの専門分野を尊重し、互いに影響しあいながら双方の目的を合致させていく必要があります。

福祉教育を推進するための連絡調整・情報交換をする場として、各地域で「福祉教育懇談会」などが開催されています。学校、教育委員会、行政、社会福祉協議会、福祉施設、教育施設、各種団体、ボランティアなどの参加により、子どもたちの活動が支えられ、地域の方々の関心を高め、大きな地域のネットワークづくりの一步としましょう。



### ①地域ぐるみの取り組み

地域には人材、組織、施設、制度、資金など多様な社会資源があります。これらを積極的に活用しながら、福祉教育を展開することが大切です。

そのためには、地域社会の特性をはじめ、福祉の現状、社会資源の存在について把握しておく必要があります。そのためには社会福祉協議会ボランティアセンターなどと連携を図ることが考えられます。



### ②家庭における福祉教育

福祉教育について家庭の理解と参加を図ることが大切で、連携を持ちたいのはPTA組織です。PTAが福祉教育の重要性と役割について理解を深めることで、多くの親子がボランティア体験を共有化することが期待できます。

### ③福祉の教育の団体、施設、機関との連携

地域には様々な社会資源があります。たとえば、町内会、自治会、老人クラブ、社会教育団体、ボランティアグループ、青年会議所、NPO などです。

これらの連携を図るには、それぞれの年間事業計画に福祉教育のプログラムを織り込んでもらうなどの方法が考えられます。



## 2. 児童・生徒のボランティア活動の13分野

### 1. あつめる・つる（収集・募金活動）

使用済み切手、ベルマーク、ロータスクーポン、書き損じはがき、図書、衣料、文房具、カレンダー、アルミ缶、テレカ等、赤い羽根共同募金、歳末助け合い募金、緑の羽根募金、ユニセフやユネスコへの寄付  
※集めた物やお金がどのように使われているのかをしっかりと知らせることが大切です。どうしても、量を問題にしていますが、活動の質を高める努力をして下さい。

愛ちゃん と 希望くん



### 2. つくる（製作・創作活動）

活字書を点字に訳す、広報紙を録音テープに吹き込む、弱視の人のために活字書の文字を大きく拡大して写本する、手で触ってわかる絵本を作る、身体の不自由な子どものための玩具や遊具の考案、ゲームやレクリエーションの考案、障害をもった方の補助具の考案、寝たきりの方に贈るオムツやプレゼント等の小物づくり、地域に配布する版画カレンダーの作製



### 3. ふれあう（友愛訪問・交流活動）

寝たきりの方のいる家庭を訪問して話し相手や相談相手となる、身体の不自由な子どもの遊び相手、読み聞かせの活動、手紙の交換、お世話になった方々への礼状の送付

※訪問先との信頼関係をつくるのが大切です。地域と結び付き、差別や偏見を取り除く努力の過程はボランティア学習そのものです。



### 4. てつだう（サービス活動）

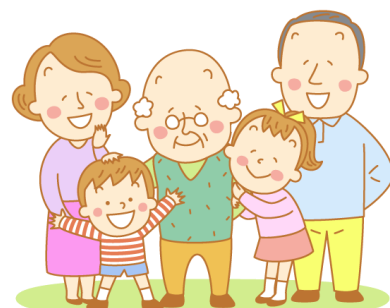
福祉施設でのワークキャンプ、一人暮らしの老人への給食サービス、除雪ボランティア、専門技術を活かした活動、特別養護老人ホームでのオムツたたみ、地域のイベントの手伝い

※児童・生徒が自分自身を、地域を支える一員であると自覚できればすばらしいボランティア学習となります。

### 5. ひろめる（啓発・啓蒙活動）

講演会、映画会、展示会、ボランティア活動の体験発表会、全校集会、ボランティア活動の情報を地域や家庭に伝える通信の発行

※難しく考えないで子どもたちの声を率直に地域に伝えたいものです。



### 6. しらべる（調査・研究活動）

地域の遊び場や危険な箇所の点検、公害に関する調査活動、自然の動植物についての観察・調査活動

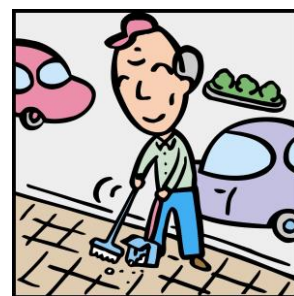
※自分たちの身体を使って「福祉の問題に気づく」大切なボランティア学習となります。



## 7. ととのえる（地域環境整備活動）

地域の清掃活動、花いっぱい運動、交通安全を呼びかける標語・ポスターづくり、自然や動植物の保護に取り組む活動

※学童・生徒に「生命の問題」を投げかけ、自分も地球人の一人というグローバルな意識を育んでいくことが活動に深みを持たせます。



## 8. まなぶ（学習活動）

手話、点字、朗読、介助活動のため必要な技術（例えば車イスの取扱い）、目の不自由な方のガイド

※ただ技術を学ぶのではなく、そこからハンディをもった人たちについて考えることが目的です。また、学習を継続して進める中で、地域のボランティア実践者やハンディをもっている人たちとのネット（関係）がつけられていきます。

## 9. つたえる（文化伝承活動）

竹トンボ等昔からの遊びや行事・芸能活動などを体験する、郷土史の学習、博物館や史跡を案内するガイドボランティアの活動

※歴史の流れの中での、人の生き方や考え方、生活の仕方などを体験的に学ぶことは、ボランティア学習に他なりません。



## 10. たのしむ（体育・レクリエーション活動）

※地域のクラブや少年団、子ども会などで、リーダーや補佐として参加・協力する活動です。

## 11. まもる・ふせぐ（生活改善・保健衛生・医療看護の活動）

食生活を考える、食品公害や自然食について考える、飢餓と飽食について考える、ごみの問題について考える、環境汚染の問題について考える、救急法の学習、家庭看護の学習、蘇生法の学習、献血活動

## 12. なかよくする（国際協力・国際理解活動）

地域単位での海外交流、外国の方のホームステイ受入れ

※文化を理解し、人を理解するということは大変なことです、ボランティア学習の大きな目的でもあります。

## 13. まねく（学校行事への招待活動）

運動会や学芸会等の学校行事に地域の方々を招待

※施設や地域のお年寄りを招待する場合には、手紙の活動と合わせて継続的に行うと学習の効果があがります。



# ～社会福祉協議会の取り組み～



静岡県社会福祉協議会・下田市社会福祉協議会では、小学校・中学校・高等学校の児童・生徒等を対象に福祉に関する理解を深め、ボランティアや社会連帯の心を育むことを目的に、福祉教育に取り組む学校を指定し推進しています。

福祉教育とは福祉の心を育てる教育です。誰もが安心して幸せに生きる福祉社会をつくるために、福祉問題に目を向けた学習を通して地域福祉への関心と理解を深め、更に自ら参加実践することによって心豊かな人間形成を図るとともに、福祉問題を解決する力を身につけることが求められています。

## 福祉教育に関する活動

- 総合学習の援助（助言、企画提案）
- 福祉施設、ボランティア団体、老人クラブ等団体の紹介
- 福祉教育講師紹介、派遣、コーディネート
- 福祉教材の貸し出し(車イス、点字器、車イス、ビデオ等…)
- 夏期ボランティア活動体験学習（市内福祉施設）
- 個人ボランティアの受付、活動紹介、コーディネート
- 赤い羽根共同募金活動（歳末助け合い運動等）
- 善意銀行での寄付金の受付
- ふれあい広場の開催
- 社会福祉大会の開催
- ボランティア団体からの活動依頼

など…

# ～福祉教育事務手続きマニュアル～



## 学習計画作成の相談について

1. 単元全体の組み立て・内容について福祉の観点から助言を行なうことができます。
2. 具体的な実践例を提示することができます。

相談する場合は下田市社会福祉協議会に電話し、アポイントメントをとり、指定日時に下田市総合福祉会館にお越しください。

## 物品の貸し出しについて

1. 下田市社会福祉協議会に電話し仮予約します。後日、借用願を取りに来てください。(または、様式集よりコピーしてください。)
2. 貸出日になりましたら申請書をもって、下田市社会福祉協議会(下田市総合福祉会館2F)に取りに来てください。  
＊貸し出し日時 平日 8:30～17:15

### 3. 貸し出し物品

貸し出し物品	貸し出し数	貸し出し期間
車いす	10台まで	原則最長2週間
アイマスク	80個まで	
白杖	15本まで	
点字器	40個まで	
高齢者疑似体験グッズ	6セットまで	
福祉ビデオ	5本まで	原則最長3週間

## 講師の紹介について

学習の流れを確認し、講師が必要であると判断したとき、障害者講師、ボランティア経験者、介護経験者、福祉関係者を紹介します。

- ① 下田市社会福祉協議会に電話で申し込みます。又は、様式集の「講師依頼書」を記入し下田市社会福祉協議会へFAXします。  
電話にてお申込の際は、講演日時、学習目的、学習計画、進行状況、講師の役割、講演内容をお聞きます。  
\* 講演企画決定後、ただちに申し込みしてください。

- ② 講師を選定し、下田市社会福祉協議会より学校に連絡します。  
\* 電話申し込みより約1週間後

- ③ 講師、教師、社協職員三者による事前打合せ  
事前打合せは、教師と講師が互いの思いを理解・確認する機会として、教師が児童・生徒の様子、伝えてほしい事柄を講師に伝える機会として非常に重要です。(都合が合わない場合、電話での打合せ)  
\* 講師との調整により。

- ④ 講演当日  
当日の講師の送迎、対応は原則、学校側で責任を持って行なってください。社協職員は原則出席いたしません。

### ◎ 『講師の立場 謝礼・交通費について』

- ① 講師は教師と共に授業を作る立場で活動をしています。  
② 講師を依頼する際は、講師に対して謝礼・交通費を払うことが原則となります。\* 授業内容により要相談  
③ 謝礼額は明確なものではありません。(要相談)  
④ 交通費は往復実費となります。(個人によっては介助料が必要です。)



# 樣式集

# 借 用 願

下記により機材を借用したく、ご高配くださるようお願いいたします。

記

1. 借用機材名	<input type="checkbox"/> 車椅子 (台数      台) (No.      ) <input type="checkbox"/> その他 (      )
2. 機材使用目的	
3. 借用期間 及び予備日	平成    年    月    日～平成    年    月    日 (平成    年    月    日～平成    年    月    日) (返却予定日)
4. 借 用 者	住 所 下田市 団 体 名 及び氏名 電 話 <div style="text-align: right;">⑩</div>

※ただし、上記機材の借用について、使用本人が必要としなくなった場合においては、直ちに借用をとくものとする。

平成    年    月    日

社会福祉法人  
下田市社会福祉協議会長 殿

貸出年月日	局長印		取扱者印
年    月    日			
返却年月日	局長印		取扱者印
年    月    日			

# 講師依頼書

FAX 送信（送信書は不要です。）  
FAX：0558-22-0584  
下田市社会福祉協議会  
福祉教育担当 行き

社会福祉法人  
下田市社会福祉協議会長 様

学校名

校長名

電話番号

FAX 番号

どのような分野の学習をしたいですか？ （希望するものを○で囲んでください）		児童関連・障害者関連 高齢者関連・地域関連	
講師派遣予定日時は いつですか？		月 日 曜日 時 分から 時 分まで	
学習対象（学年/人数）			
会 場		担当教諭名	
講師を依頼する 目的はなんですか？		（目的）	
単元名も記入してください。 （例：総合学習、国語…）		（単元名）	
講師に話してもらいたい内容は どのようなことですか？			
用意できる予算（講師料）		円	
備考			

事務局使用欄

	講師名	TEL	確認日	結果
経過			月 日	
経過			月 日	

# 協力依頼書

FAX 送信（送信書は不要です。）  
FAX：0558-22-0584  
下田市社会福祉協議会  
福祉教育担当 行き

社会福祉法人  
下田市社会福祉協議会長 様

学校名  
校長名  
電話番号  
FAX 番号

どのような分野の学習をしたいですか？ （希望するものを○で囲んでください）		児童関連・障害者関連 高齢者関連・地域関連	
活動予定日はいつですか？		<div>月 日 曜日</div> <div>時 分から 時 分まで</div>	
学習対象（学年/人数）		学年	人数
会場	担当教諭名		
協力を依頼する 目的はなんですか？		（目的）	
単元名も記入してください。 （例：総合学習、国語…）		（単元名）	
協力してもらいたい内容は  どのようなことですか？			
備考			

事務局使用欄

	講師名	TEL	確認日	結果
経過			月 日	
経過			月 日	

【お問い合わせ・申し込み先】

下田市社会福祉協議会

福祉教育担当

住所：下田市四丁目１－１

総合福祉会館

電話：0558-22-3294

FAX：0558-22-0584